

# 地理歴史科『現代史』

## シラバス

北海道常呂高等学校

学年	3	単位数	2	授業形態	一斉															
教科書 (出版社)	なし		副教材等 (出版社)	自作資料(プリント・データ)																
学習目標	○日本の占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などを基に、日本と世界各国の政治や社会の枠組み、国民生活がどのように変容していったか理解を深め、歴史的考察力を身につける。																			
学習方法	○自分にとって効果的な知識の定着方法や勉強方法を確立するために書く、話す、調べる、資料を作る、発表する、反復するなど、多くの方法に挑戦する。 ○授業ごとの問い合わせに対する考え方をまとめることにより、歴史的考察力を身につける。 ○ワークシートで単元の振り返りを行い、自分の考えの整理や確認を行う。																			
学習評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価の観点</th> <th colspan="3">評価の観点の趣旨</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 知識・技能</td> <td colspan="3">現代史を総合的に捉えて理解している。また、資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。</td></tr> <tr> <td>イ 思考・判断・表現</td> <td colspan="3">歴史事象を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。また、考察を発表、議論することができる。</td></tr> <tr> <td>ウ 主体的に学習に取り組む態度</td> <td colspan="3">歴史事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度がみられる。また、日本や他国とそれぞれの文化を尊重する姿勢がみられる。</td></tr> </tbody> </table>				評価の観点	評価の観点の趣旨			ア 知識・技能	現代史を総合的に捉えて理解している。また、資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。			イ 思考・判断・表現	歴史事象を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。また、考察を発表、議論することができる。			ウ 主体的に学習に取り組む態度	歴史事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度がみられる。また、日本や他国とそれぞれの文化を尊重する姿勢がみられる。		
評価の観点	評価の観点の趣旨																			
ア 知識・技能	現代史を総合的に捉えて理解している。また、資料から情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけている。																			
イ 思考・判断・表現	歴史事象を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。また、考察を発表、議論することができる。																			
ウ 主体的に学習に取り組む態度	歴史事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度がみられる。また、日本や他国とそれぞれの文化を尊重する姿勢がみられる。																			
評価方法	①	②	③	④	⑤															
観点	観察	課題の取組・作成物	発表	提出物	授業態度															
ア	○	○		○																
イ	○	○	○	○																
ウ		○	○	○	○															

### 学習計画

学期	章	学習内容	評価の観点			評価規準	評価方法□
			ア	イ	ウ		
前期中間	第1章 日本の占領政策と諸改革	オリエンテーション		○	○		⑤
		1 戦後世界秩序の形成	○	○	○	国連設立過程、米ソ二極構造について理解している。	① ④ ⑤
		2 初期占領政策	○	○	○	GHQによる間接統治、東京裁判について理解している。	① ④ ⑤
		3 民主化政策	○	○	○	戦後改革について理解している。また、戦後改革について探究、発表ができる。	① ② ③ ④ ⑤
		4 政党政治の復活	○	○	○	政党政治の復活や戦後初の選挙について理解している。	① ④ ⑤
前期期末	第2章 日本国憲法の制定	5 生活の混乱と大衆運動の高揚	○	○	○	戦後の国民生活の様子について理解している。	① ④ ⑤
		1 日本国憲法成立過程	○	○	○	日本国憲法成立過程について理解している。	① ② ③ ④ ⑤
		2 日本国憲法の要旨	○	○	○	日本国憲法の要旨について理解している。	① ④ ⑤
前期期末	第3章 平和条約と独立の回復	1 冷戦体制の形成と東アジア	○	○	○	冷戦体制の形成について理解している。	① ④ ⑤
		2 占領政策の転換	○	○	○	占領政策転換の経緯について理解している。	① ④ ⑤
		3 朝鮮戦争	○	○	○	朝鮮戦争が日本と世界に与えた影響を理解している。	① ④ ⑤
		4 講和と安保条約	○	○	○	サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約締結の経緯について理解し、探究、発表ができる。	① ② ③ ④ ⑤
		5 占領期の文化	○	○	○	占領期の文化について理解している。	① ④ ⑤

学期	章	学習内容	評価の観点			評価規準	評価方法□
			ア	イ	ウ		
後期中間	第4章 戦後の経済復興と高度経済成長	1 冷戦構造と55年体制	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	冷戦の成り立ちと55年体制について理解し、探究、発表ができる。	① ② ③ ④ ⑤
		2 朝鮮特需と経済復興	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	朝鮮戦争が日本にもたらした影響と経済復興について理解している。	① ④ ⑤
		3 高度経済成長	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	高度経済成長の経緯について理解している。	① ④ ⑤
		4 大衆社会の誕生	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	大衆社会に移行していった経緯について理解している。	① ④ ⑤
		5 高度経済成長のひずみ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	高度経済成長がもたらした負の側面について理解している。	① ④ ⑤
	第5章 経済大国日本	1 ドル危機と石油危機	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ドル危機と石油危機が日本にどのような影響をもたらしたか理解している。	① ④ ⑤
		2 高度経済成長の終焉	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	高度経済成長が終焉にいたった経緯について理解している。	① ④ ⑤
		3 経済大国の実現	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	経済大国となった日本の国内外の状況を理解し、探究、発表できる。	① ② ③ ④ ⑤
		4 バブル経済と市民生活	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	バブル経済が国民にどのような影響を与えたか理解している。	① ④ ⑤
後期期末	第6章 冷戦の終結と日本社会の変容	1 地域紛争	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	冷戦後の地域紛争について理解している。	① ④ ⑤
		2 55年体制の崩壊	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	どのように55年体制が崩壊したか理解している。	① ④ ⑤
		3 平成不況	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	平成不況下の日本がどのような状況か理解している。	① ④ ⑤
	第7章 現代の諸課題		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	現代の様々な課題について探求を深め、発表できる。	① ② ③ ④ ⑤